

令和5年度 進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 4 文化的で豊かな共生社会の実現

主要課題	No. 38	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の推進とレガシーの継承
-------------	--------	-------------------------------------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●		主要課題の戦略シートで設定している「4年後の目指す姿」と「計画期間の方向性」を転記しています。
4年後の目指す姿	オリンピック・パラリンピックが目指す理念や精神が、東京2020大会を契機とした、スポーツ・文化・交流・共生社会の理解など、様々な分野における区の施策や区民の地域活動に、「レガシー」として継承されている。	
計画期間の方向性	○大会に向けた気運の醸成 東京2020大会の成功に向け、区民と一体となって気運醸成を図り、大会期間中の賑わいを創出します。 ○障害者スポーツの普及・スポーツ振興 大会の開催を契機として、障害者スポーツの普及に取り組むとともに、今後も続くスポーツの国際大会の機会等を捉えながら、区民がスポーツを楽しむ機会の拡充を図ります。 ○文化振興・国際交流の推進 大会の開催を契機として、区民が日本の文化や芸術などへの理解を深めることができる機会の充実を図ります。また、ドイツを相手国としたホストタウン事業等により、スポーツや食文化等、様々な文化に触れる機会を創出し、区民の国際理解を促進します。	

0 昨年度の施策の方向性（昨年度の点検における「4 今後どのように進めていくか」）	
区民のスポーツに向けた気運が一過性のものとならないよう、スポーツ関係団体や区内企業、大学等と連携しながら、各種スポーツ事業を実施していきます。また、コロナにより中止や規模の縮小が続いていたスポーツ事業や各種教室・大会が、徐々に再開されつつあることから、スポーツ事業実施団体の活動の支援を行うなど、事業の再興を支援していきます。 各種スポーツ団体や関係企業等とも連携し、パラリンピアンとの交流会及び花の五大祭りでパラスポーツの体験会を行う等、区民がより気軽にパラスポーツを楽しむ機会を拡充していきます。 ホストタウン事業が終了した後も、レガシー事業となる他事業への引継ぎや大会後交流事業を行うなど、途切れることなく区民が国際理解を深めていけるような場を提供していきます。	

事業費（令和4年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で・何をしたか（実績）		戦略シートの課題の解決手段として紐づけた計画事業について、「何をしたか」「何がどうなったか」を記しています。							
事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割					事業費(千円)	
133	東京2020オリンピックパラリンピック事業	スポーツ振興課	東京2020大会の気運を醸成し、賑わいを創出するとともに、大会のレガシーを継承する。					— —	
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① 気運醸成に向けた東京2020大会推進事業参加者数	人	10,178	13,755	中止	3,130	—		
134	文京スポーツボランティア事業	スポーツ振興課	様々なスポーツ活動を支える人材を育成する。					490千円 (1,151千円)	
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① 登録者数	人	274	157	100	107	108		
	② 事業従事者数（延べ）	人	472	323	中止	55	86		
135	スポーツ施設の環境整備事業	スポーツ振興課	利用しやすいスポーツ施設を整備する。					14,001千円 (13,398千円)	
	主な取組実績								
	R1(2019)	六義公園運動場管理事務所棟改築工事を行っています。							
	R2(2020)	六義公園運動場管理事務所棟改築工事を完了しました。また、小石川運動場ベンチシートを整備しました。							
	R3(2021)	文京江戸川橋体育館外壁及び屋上防水改修工事、竹早テニスコート管理棟改修工事、後楽公園少年野球場グラウンドの人工芝整備工事を行い、全て完了しました。							
R4(2022)	竹早テニスコートの人工芝張替工事を行い、給排水設備等工事を完了しました。								

200	スポーツ振興事業	スポーツ振興課	スポーツを通じて、東京2020大会のレガシーを継承する。					40,482千円 (7,556千円)	
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① 学校でのハンドボール出前授業、ブラインドサッカー体験授業(スポ育)実施校		校	—	—	—	—	21	
	② 障害者スポーツ事業参加者数(パラスポーツボッチャ体験、ユニバーサルスポーツ体験等)		人	—	—	—	—	1,262	
	③ ホストタウン事業参加者数(各種講座、イベント等)		人	337	17,720	180	329	162	
119	文化育成事業	アカデミー推進課	区の文化資源を、区の魅力として区内外に発信する。					25,509千円 (34,402千円)	
	主な取組実績		単位	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)
	① 日本×ドイツ親善交流演奏会応募者数		人	—	4,927	—	—	—	
●特記事項(実績の補足)									
「事業番号133 東京2020オリンピックパラリンピック事業」のうち、ホストタウン事業については、令和4年度から「事業番号200 スポーツ振興事業」に移行しています。									

2 現総合戦略において、社会ではどのような動きがあったか(社会環境等の変化)		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった(今後、法改正がある)	
有	主要課題に影響を及ぼす変化等があった(今後、変化等の可能性がある)	
令和2年度に東京2020大会が開催されました。		

3 現総合戦略における成果や課題は何か(点検・分析)		1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに、令和2年度から5年度までの現総合戦略の計画期間において、「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じていないか」などを点検・分析します。
----------------------------	--	---

○大会に向けた気運の醸成

東京2020大会前には、感染症拡大防止対策を講じながら、大会ロゴによる庁舎及び周辺の公園・道路の装飾やパラリンピック聖火リレー採火式といった大会関連事業を実施しました。大会終了後は、区内スポーツ施設がハンドボールの公式練習会場となったことを記念し、オリンピックによる近隣の小学校でのハンドボール交流会を実施するなど、区民のスポーツに向けた気運を高めてきました。今後は、関係団体と協働しながら各種スポーツ事業を実施し、パリ2024大会に向けて継続的に区民のスポーツへの気運を高めていく必要があります。

○障害者スポーツの普及・スポーツ振興

東京2020パラリンピック競技大会を通じて、パラスポーツやパラアスリートが一層注目されることになりました。大会期間中及び大会期間後は、花の五大まつりの会場等でパラスポーツ(ボッチャ)体験ブースを出展しました。令和3年度及び4年度には、ユニバーサルスポーツ体験事業や、障害の有無に関わらず誰もがサッカーを楽しむ教室を実施したことなど、多くの方にパラスポーツやインクルーシブスポーツを体験してもらうことができました。今後も引き続き、区民が気軽にこれらのスポーツに触れることができる機会を提供していく必要があります。

○文化振興・国際交流の推進

これまで、東京2020大会のホストタウン事業として、大会前から大会期間中において、相手国となったドイツについて、ドイツ語や文化を学ぶ講座を実施してきました。また、令和2年5月に、パラリンピック難民選手団のホストタウンとなり、同年度内に難民選手団とのオンラインでの交流事業や選手へ青い紙ひこうきに乘せた応援メッセージを送る活動、難民選手の紹介展示を実施しました。3年度には、区立小学校に東京2020大会に出場したアスリートを招いて、子どもたちと対面での交流イベントを実施するなど区民の国際理解を深めてきました。大会及びホストタウン事業の終了後も、引き続き区民の国際理解を深めていく必要があります。



4 次期総合計画において、どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、令和6年度から9年度までの次期総合計画の計画期間における戦略としての進め方を記しています。

デジタル技術を活用した競技体験等のスポーツ分野におけるDXの推進や、ニュースポーツの体験事業、スポーツ団体等との協働等により、区民がいつでも、様々なスポーツに触れる機会を提供し、スポーツ気運を継続的に高めていきます。

また、各種事業の展開により、パラスポーツの認知を広めていくとともに、年齢・性別・体力・障害の有無等に左右されることなく、誰もが安心してスポーツに触れられる要素を事業に取り入れ、インクルーシブスポーツ概念の理解や普及を促進していきます。

さらに、着実な施設の維持管理と、柔軟な発想で工夫することにより、施設の魅力を創出するとともに、誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整備していきます。

5 6年度、事業をどうするか（事業の見直し）

主要課題に紐づけられている個々の計画事業の6年度の検討の方向性を「継続」「レベルアップ」「見直し・縮小」「事業終了」「計画変更」で記します。

事業番号	計画事業名	所管課	次年度の方向性
133	東京2020オリンピックパラリンピック事業	スポーツ振興課	事業終了（R3年度）
134	文京スポーツボランティア事業	スポーツ振興課	継続
135	スポーツ施設の環境整備事業	スポーツ振興課	レベルアップ
200	スポーツ振興事業	スポーツ振興課	レベルアップ
119	文化育成事業	アカデミー推進課	レベルアップ